会報 高鷲の文化財
第 25 号 平成 28 年 11 月 16 日発行
郡上市高鷲町文化財保護協会
題字：麦島　博昭　氏

平成28年度「正倉院展と阿修羅像拝観の旅」研修旅行報告

本年度の文化財県外研修旅行は、11 月 1 日（火）と 2 日（水）の両日、奈良市の奈良国立博物館で開催されている正倉院展と、興福寺国宝館にある阿修羅像を会員の皆様に見て頂くために企画しました。研修当日は、前日の夜は雨が降り、さい先の悪い研修旅行に成りそうな感じでありましたが、出発時間の７時頃には雨も止み、東の空に青空が見えてきました。今年は、出発地をひるがのガソリンスタンド前となりましたので、そこから会員を順次乗車していただき、予定通り高鷲振興事務所前を出発。八幡観光バスのＯ運転手さんも気さくな方で、皆さんとの会話も弾んだ。白鳥の大島でＹ　氏が乗車、いよいよバスは奈良市東大寺を目指して一路東海北陸道・名神高速道・京滋バイパスをひた走りました。バスの中では研修委員長である鷲見副会長からの話や、馬渕会長の奈良市や東大寺の話及びＮ氏のブログの話など楽しい会話が続き時間の経つのを忘れ、東大寺の駐車場でお弁当の昼食を食べ、いよいよ研修が始まりました。

奈良公園（世界遺産・東大寺・正倉院・二月堂の見学）

東大寺は、金光明四天王護国之寺ともいい、華厳宗の大本山であり、「奈良の大仏」として知られる盧舎那仏を本尊とする聖武天皇が建立した寺です。中世以降、二度の兵火で多くの建物が焼失し、現存する大仏は、台座などが当初の部分で、大仏殿等は江戸時代の再建、創建当時の堂に比べて間口が３分２に縮小されているそうです。最初に仁王像(国宝)がある南大門前で全員が記念写真後、馬渕会長の案内で大仏殿や二月堂、三月堂、正倉院をゆっくりと拝観し、紅葉が始まった東大寺境内を散策し、悠久の一時を過ごした。そこで会員が詠まれた一句を紹介します。

南大門前で記念撮影

爽やかに奈良の大仏笑み賜ふ(和美)

興福寺拝観

同じ奈良公園内にある興福寺は、南都六宗の一つの大本山で、南都七大寺の一つに数えられています。この寺は高鷲の鷲見氏の祖先である藤原氏の氏寺で、古代から中世にかけて強大な勢力を誇った寺です。近世の江戸時代になると２万１千石の寺領を持っていましたが、明治の神仏分離令による廃仏毀釈の嵐によって春日大社と一体の信仰が行われていた興福寺は大きな打撃を受けました。子院は全て廃止、寺領は没収、境内は奈良公園の一部となり、一乗院跡は奈良地方裁判所に、大乗院跡は奈良ホテルになりました。一時は廃寺同然となり、五重塔、三重塔さえも売りに出される始末でした。

明治１４年ようやく興福寺復興の許可が出され、境内にある諸堂塔も修理され、寺としての景観が整えられたが、寺には塀がなく公園のなかに寺院がある状態、いわゆる「信仰の導線」が欠落した状態となってしまいました。興福寺国宝館は僧侶たちが食事をとる食堂（じきどう）の跡地に、昭和３４年に耐火式宝物収蔵庫として建てられました。中には９２の仏像が収蔵され、４２の国宝があります。有名な仏像としては阿修羅像や千手観音菩薩像があります。そこで、会員が詠まれた一句。

秋天を突き破る如五重塔　(和美)
信篤き人の集ひし寺の秋　(和美)

正倉院展

翌２日は、１０月２２日から１１月７日まで奈良公園内にある奈良国立博物館で開催されいる「正倉院展」を見学しました。
昭和２１年の第一回目となる正倉院展の開催から７０年目の節目となる今年の正倉院展には、北倉１０件、中倉２９件、南倉２２件、聖語蔵３件の合わせて６４件もの宝物が出陳され、初めて公開される宝物は、今回は９件を数え、天平文化の精華が広く示されていました。特に聖武天皇のご寵愛品である漆胡瓶はシルクロードの遺風を感じさせる至宝として名高く、また、現存する日本最古の戸籍「御野国加毛郡半布里」の戸籍は現在の岐阜県加茂郡富加町羽生のもので、高校の日本史の教科書しか見ることの出来ない貴重なものが展示してありました。
９時から開館でしたが８時３０分から並び、それでも入館までには４０分もかかりました。こんなに長く並んでもやはり正倉院展は一見する価値があると思いました。

秋篠寺参拝

秋篠寺本堂前で記念撮影

最後の見学地、秋篠寺は本尊を薬師如来とする奈良市秋篠町にある寺院で、余り訪れる人の少ない静かな法相宗の寺でしたが、今は単立です。技芸天像と本堂が国宝であり、私達は住職から説明を受け、本堂や仏の謂われなどを学習しました。
さらにこの寺は、平成２年礼宮様が結婚され、天皇陛下から「秋篠宮」の宮号を賜り、妃殿下である「紀子さま」の横顔が技芸天像に似ているという評判がおこり、多くの人が訪れました。
また平成１６年には秋篠宮長男、悠仁様が誕生されると慶事があり、寺は大層賑わったそうです。

身に入むや諸仏の謂われ知りてより（和美）
片腕の無き御仏の露けしや（和美）

名古屋市博物館で「たかす開拓記念館」をPR

平成２８年１０月２６日から１１月６日まで名古屋市瑞穂区にある名古屋市博物館３階で、総務省から委託を受けている「平和祈念展示資料館」が『平和祈念展』を開催しました。８月上旬、この展示に、中央工芸を通して名古屋市博物館の展示に参加しないかという話が舞い込み、「たかす開拓記念館」も一コナーを担当することになりました。『平和祈念展』は「兵士」、「戦後強制抑留」、「海外からの引き揚げ」、「映像による写真・絵画作品」など７つの展示コーナーがあり、たかす開拓記念館は右写真のように、ポスターとパンフレットと「語りべたち」「追憶　琿春高鷲」「続追憶　琿春高鷲」の冊子を展示しました。
名古屋という都会で、郡上市高鷲町に新しく開館した「たかす開拓記念館」のことを多くの人にＰＲし、一人でも見学に来て、知っていただければ幸福と思います。